

インドネシアの先生が 中山中学校を視察



日本の伝統音楽の授業を熱心に見学しました

7月12日(水)、JICA青年招へい事業としてインドネシアの小中学校の先生など22人が、大山町教育委員会と中山中学校を訪問しました。

午前中の教育委員会の視察では、「教員の研修はどうなっているのか」「学校の設備はどんなものがあるか」「理想の学校とはどういう学校か」など熱心に質問していました。

その後、町内のブルーベリー園で摘み取りを体験しました。インドネシアにはブルーベリーがないということで、「とても甘い」「おいしい」「本当にいくら食べてもいいのか」などと話し、楽しいひと時を過ごしました。

中山中学校訪問

午後の中山中学校の訪問では、学校給食の試食、授業参観、職員との懇談、抹茶の体験、施設見学や部活動の見学など忙し

い日程でしたがとても意欲的に活動していました。

特に関心を寄せたのは琴の授業でした。インドネシアでも郷土に伝わるガムラン音楽を学校でも教えており、自国の文化を伝承する大切さを相互に感じました。

また、学校の設備や備品の充実さに驚きとうらやましさを口にしていました。

視点の違い

日本では全国どこでも同じ基準で教育が展開される中で、地域の特色をどのように生かして学校教育を展開するのが求められています。インドネシアでは地域により学校教育の格差があり、質問は「どうしたら同じ教育ができるのか」に集中し、視点の違いを感じました。

視察を終えて帰る青年たちは、体育館や2階の窓から生徒たちに見送られ、笑顔で中山中を後にしました。



初めて食べる給食の味は？